

[外国語]

「進んでかかわりを持ち、コミュニケーション能力を高め合う子どもの育成」をめざした授業づくり

－教育課程特例校「国際科」の学習を通して－

小菅 哲志*

1 はじめに

M市立U小学校は、平成19年度・20年度の2年間、文部科学省国際理解活動推進事業拠点校の指定を受けた。この2年間は、総合的な学習の時間の週1時間を国際理解教育として英語活動にあて、年間35時間の指導計画を立て、試行錯誤しながら授業実践に取り組んできた。平成20年度は、文部科学省より出された「英語ノート」の有効活用を考慮して年間指導計画を見直し、授業実践を進めながら授業展開や内容に修正を加えてきた。そして、平成21度は、2年間の成果をふまえ、南魚沼市で始まった「国際科」の時間として年間35時間の授業を進めている。

今年度筆者は、6年生を担当している。普段から間違いや失敗を気にせず、自分の考えや思いを積極的に表現できる児童もいるが、間違いに対して恥ずかしいという気持ちが先行して、消極的になってしまう児童が多い。国際科の学習でもその傾向は見られるが、他の学習に比べると、表現することへの抵抗感は少ない。授業の導入で、ALTに日時や天気について、突然質問されても、何とか応えようと努力している姿が見られる。

国際科の学習に関する児童の反応では、

- ・チャンツやアクティビティーが楽しい。
- ・ALTとの会話や、ふれ合いを通して学ぶ外国の文化を新鮮に感じる。
- ・ほとんどの友達が英語学習は初めてだから、安心感があるし、間違いに対する恐怖心が少ない。

などの感想が多い。これらの理由から、多くの児童は、学んだ英語表現を使って、何とか自分のことを表現しようと努力している。

また、学習中のアクティビティーでは、いろいろな友だちとかかわりを持ち、楽しそうに表現活動をしている児童が多い。表現の仕方を忘れてたり、表現の仕方が分からずに困ったりすると、自分からALTのところへ質問に行き、積極的にかかわりをもとうとしている児童が多くなってきている。平成20年度に行った国際大学訪問では、4カ国の留学生と交流した。片言の英語を使って自己紹介したり、事前に準備しておいた簡単な質問をしたりしていた。最初は緊張して思うように会話できなかった児童も、日本語交じりの英語を使い、身振り手振りを入れながら、何とかコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。

しかし、普段の学校生活においては、人間関係づくりが苦手な児童が増えている実態がある。異学年の児童はもちろんのこと、同学年の友達ともうまくかかわりをもてず、孤立してしまう児童もいる。コミュニケーション能力は、人とかかわりを築いていくために大切な力だとも考える。将来につながる最も重要な生きる力だとも考える。

M市立U小学校では、今年度の研修のテーマに「コミュニケーション能力の育成」を取り上げ、授業実践に取り組んでいる。今年度、担任している子どもたちは、国際科の学習に意欲的に取り組む。他の教科学習に比べ、人とかかわりを持ち、コミュニケーションすることにも前向きである。

そこで、国際科の学習を通して、「コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係づくり」を進めていきたいと願い、本研究に取り組んだ。そして、国際科の学習で身につけたコミュニケーション能力を、他のいろいろな学習場面や生活の場においても発揮できるようにしていきたいと考えた。

本学級で進めてきた1年半の英語活動の実践を振り返り、まとめてみる。

* 南魚沼市立浦佐小学校

2 研究の目的

本研究の目的は、国際科の学習を通して、「進んでかかわりを持ち、コミュニケーション能力を高め合う子ども」の姿を具現化するため、国際科の授業の中で、教師がどのように子どもに働きかけ、どのように支援して、授業をつくりあげていけばよいのかを明らかにすることである。

3 研究の内容・方法

「国際科の授業における教師の支援」

国際科の学習を通して、子どものコミュニケーション能力を高め、人間関係を深めていきたい。そのための授業展開や教師の支援について、次の観点で研究に取り組んだ。

(1) 授業展開のパターン化

平成23年度から、「外国語活動」が本格実施される。授業展開をパターン化することで、外国語活動に不安を抱えている教師でも、子どもたちの前で自信をもって授業に臨めると考えた。また、子どもたちも、授業をパターン化することで、先を見通して学習に臨めるので、安心感がもてると考えた。

そこで、国際科の授業では、

「あいさつ→チャンツ→本時の学習用語の確認・練習→アクティビティー→振り返り→あいさつ」

を基本的な流れとして展開している。児童は、新しい英語表現を学習する時は、授業の流れが分かっていると、安心して学習に臨めるようである。

景浦(2007)は、「授業の流れの固定化」を勧めている。そうすることによって、「教師が授業毎にあれこれ考えなくてもいいし、子どもが授業の流れに戸惑うことも少なくなり、更にはALTやGT(Guest Teacher)との連絡もスムーズにいく場合が多い」と述べている。また、「授業の流れを固定化することによって、後は言語材料の選択と活動の組み合わせに教師の意識を手中することができる」とも述べている。

実践を進めていく上で、次の二つの観点をもとに取り組んだ。

- ① 基本的な授業の流れ
- ② 繰り返しの会話練習

(2) 実態をふまえた授業の展開とその工夫

授業のパターン化を図ることで、テンポよく授業を展開できると考えた。しかし、一方では、授業のマンネリ化といった懸念もある。そこで、授業のマンネリ化を防ぐための方策として、次の3つの観点をもとに実践に取り組むことにした。

- ① 多様なかかわり合いの場づくり
- ② 英語ノート活用の工夫
- ③ アクティビティーの工夫

4 研究の実際

(1) 平成20年度 第5学年国際理解教育「What do you want?」の実践から

- ① 単元名 「What do you want? ～ほしいものは?～」(全4時間)
- ② 単元の目標
 - 身近な外来語に興味をもち、外来語のものと言葉との音の違いに気を付けて発音しようとする。
 - 欲しい物を聞いたり、答えたりしようとする。
- ③ 本時の学習(3/4)
 - ア 本時のねらい
 - パフェショップで、店員と客とのやりとりに慣れ、積極的に注文を聞いたり答えたりしようとする。
 - 友だちの注文を聞き取り、パフェを作ろうとする。
 - イ 展開の構想

導入は、食べ物の絵カードを使ってテンポよく行い、前時を想起するとともに、気分を盛り上げる。そして、本時

の活動につなげていく。

展開では、準備しておいた果物の絵カード（「英語ノート」の巻末）を使ってパフェ作りをする。作業のしやすさを考慮し、ここでは「英語ノート」のコピーを1枚ずつ配布し、それを使って活動することにした。

最初にHRTとALTが見本を示す。児童を交えて何度か見本を示した後で、自分の好みのパフェを作る。パフェを作り終えたら、隣の友だちとパフェを紹介し合う。早くできたら、前後の友達や斜めの友達とも紹介し合い、英語で表現する回数をできるだけ多くする。

次に、パフェショップでの、店員の注文の聞き方や客の注文の仕方を学習する。最初にHRTとALTが客役と店員役になって見本を示す。児童を交えて何度か見本を示した後、全体で店員と客に分かれて注文のやりとりを練習する。次に、友だちとペアを作り、交代で注文のやりとりを行う。ここでも、隣の友達や前後の友達・斜めの友達などで行うようにして、英語で表現する回数を多くする。

相手を変えながら繰り返し表現活動することで、「What do you want?」・「～, please.」・「Here you are.」・「Thank you.」・「You're welcome.」という店員と客との基本の会話に慣れさせ、英語で表現することに自信をもたせる。また、店員と客の双方を体験することで、聞く意識と話す意識をもたせながら活動させることを目指した。

ウ 本時の展開

ステップ	HRTとALTの働きかけと児童の意識	・指導上の留意点 ※評価
1 あいさつ 1分	A: Hello, everyone. S: Hello. ~ A: How are you? S: I'm ~.	
2 チャンツをする。 5分	○食べ物の絵カードを見ながらチャンツをしましょう。 A: Let's Chant.	・絵カードを見せながらチャンツを進める。
3 オリジナル・パフェの作り方を知り、パフェを作る。 8分 (アクティビティ1)	○オリジナル・パフェを作りましょう。 A: What fruits do you like? H: I like apples, pineapples and strawberries. A: Let's make a parfait. My original parfait. I like ~, ~, and ~. This is my parfait. H: My original parfait. I like melons, cherries, grapes and apples. This is my parfait.	・掲示用カードを使って、ALTとパフェの作り方を説明する。 ・自分のパフェを作ったら、隣の友だちと紹介し合うように指示を出す。
4 パフェショップで、注文を聞いたり、答えたりする言い方を練習する。 10分 (アクティビティ2)	○店員さんが注文を聞いたり、お客さんが注文したりする言い方を練習しましょう。 H: Hello. A: Hello. What do you want? H: Peach, pineapple, and banana, please. A: Ok. Here you are. H: Thank you. A: You're welcome.	・2人でデモンストレーションをする。 ・児童を交えてデモンストレーションを何度か行い、店員と客とのやりとりの仕方を理解できるようにする。
5 ペアを作り、注文を聞いたり答えたりする。 15分	○ペアを作り、店員とお客さんを決めて、注文を聞いたり、答えたりしましょう。1人の注文が終わったら、役割を交代しましょう。 S1: Hello. S2: Hello. What do you want? S1: ~, ~, and ~, please. (That's all.) S2: Ok. Here you are. S1: Thank you. S2: You're welcome.	・ペアの中に入って店員になり、2人の客を相手にやりとりしたり、会話に困っているペアに助言したりする。 ・最終的に、パフェを一つ完成させる。 ※店員と客のやりとりを進んで行っている。 ※注文通りにパフェを作っている。
6 振り返り 5分	○振り返りカードに、今日の学習の感想を書きましょう。	

7 あいさつ 1分	○今日の学習を終わります。 A : Good-bye, everyone. See you. S : Good-bye, ~. See you.	
--------------	--	--

エ 実践を振り返って

① 「英語ノート」の活用

「英語ノート」は、英語活動の授業を初めて行う教師には、とても参考になる。チャンツやアクティビティーなど、児童が楽しく、意欲的に活動できるものがたくさん紹介されている。学習の流れもよく吟味されていて活用しやすい。本実践では、拡大したパフェカードを使って授業を進める展開に変えた。「英語ノート」を使うよりもパフェを作る時に作業しやすかったし、児童の意欲を引き出すことができた。

「英語ノート」は、児童の実態や活動内容に合わせ、工夫して活用することが大切である。「この単元の、どこで、どんな活動を、どうやって活用するか。」は、教師の工夫次第である。

② 基本的な授業の流れ

本時も、パターン化した授業展開で行ったが、児童は見通しをもって学習に臨むことができた。しかし、授業のパターン化による惰性を防ぎ、児童の意欲を引き出すための工夫が必要であると考えた。そこで、中心活動に入る導入で、本物のパフェを用意し、ALTに食べてもらった。また、いろいろなパフェの写真を黒板いっぱいに掲示して、パフェ作りの活動に、興味・感心を持たせるように工夫した。実際の学習活動では、「英語ノート」にあるパフェ容器の拡大版を使い、視覚にうったえと共に、ダイナミックに活動できるようにした。パフェショップの雰囲気を出すために、店員役になる児童には、エプロンと帽子を着用させた。パターン化した授業の中に、児童の実態やその時々季節や行事等を考慮して、アクティビティーに工夫や変化を持たせることが大切である。

(2) 平成21年度 第6学年国際科「できることを紹介しよう」の実践から

① 単元名 「できることを紹介しよう」(全3時間)

② 単元の目標

- 「できる(can)」「できない(can't)」という表現に慣れ、自己紹介や人との会話に使用しようとする。
- 友だちに「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を進んで答えたりしようとする。

③ 本時の学習(1/3)

ア 本時のねらい

自分ができることやできないことの言い方に慣れ、進んで言おうとする。

イ 本時における支援

国際科の学習では、児童が自信をもって英語で表現し、友達や先生と進んでコミュニケーションを図ろうとするための手だてとして、「繰り返しの会話練習」を取り入れている。全体でやるだけでなく、学級の半分・列・グループ・ペアなど、人数や相手、やり方に変化をもたせている。

本単元で扱う「can」や「can't」は、児童が初めて学習する英語表現であるため、このことを特に意識して学習の展開を組み立てた。同じ会話文でも、その都度、新鮮な感覚をもちながら、意欲的に取り組む姿勢を大切にしたいと考えた。

ウ 本時の展開

ステップ	H L TとA L Tの働きかけと児童の意識	・指導上の留意点 ※評価
1 あいさつ 1分	A : Hello, everyone. S : Hello, Ms.Nakajima and Mr.Kosuge. H : Hello.	
2 Let's sing. 5分	H : Let's do Banana Chant. Let's sing Month Song.	・学習への雰囲気づくりをする。
3 canの意味を予想する。 4分	○オバマ大統領になって、アメリカ人がよく使っていた言葉を知っている？ S : Yes, we can.	・出てこなかったときは、ヒントを与える。 ・写真やジェスチャーでcan とcan'tの意味を想像させる。

<p>4 遊び道具を使って、canとcan'tの言い方を知る。</p> <p>5分</p>	<p>○canの意味って何だろう？ H:I can play TAKEUMA. A:I can ~. H:I can't~. A:I can't~. H:I can't play KENDAMA.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に演じながら、canとcan'tの言い方を示す。 ・動詞絵カードで確認しながら言い方を示す。 ・HRTの問いにALT, 児童の順で答えていく。
<p>5 できることやできないことの言い方を練習する。</p> <p>12分</p>	<p>A:What can you do? → H: I can jump. H:What can you do? → A: I can~. A:What can't you do? → H: I can't fly. H:What can't you do? →A: I can't ~. ○できることやできないことを言ってみましょう。 Ms.中嶋に続いて繰り返しましょう。 H:What can you do? A:I can~. S:I can~ H:What can't you do? A:I can't ~. S:I can't ~. ○自分のできることとできないことを紹介し合ひましょう。 H:ALTの問いに、3つ答える見本を示す。 A:HRTにできることとできないことを聞いて、やり方の見本を示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞絵カードをcanと can'tで一通り練習する。 ・自分のできることとできないことを、全体で何度も繰り返し言って練習する。 ・最後にペアをつくり、できることとできないことを三つずつ紹介し合う。 ・単語や言い方の分からない児童に教える。 <p>※自分のできることとできないことを進んで言おうとしている。</p>
<p>6 ウィスパークゲーム(伝言ゲーム)をする。</p> <p>12分</p>	<p>○ウィスパークゲームをやります。 A:What can you do? →H: I can ~. A:What can't you do? →H: I can't ~. ○ゲームを始めましょう。 H:What can you do? →A: I can~. S:I can~. H:What can't you do? →A: I can't~. S:I can't~.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTとALTでいっしょにゲームのやり方を説明する。 ・10秒間でチーム名を決めさせる。 ・言葉を確実に言ってゲームを進めることを約束として行う。 ・勝ち負けの審判をする。 ・言葉を確実に言って伝えているかをチェックしたり、戸惑っている児童を支援したりする。
<p>7 振り返り</p> <p>5分</p>	<p>○振り返りカードに今日の活動の感想を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がないときは、数人の児童に感想を聞いて終わりにする。
<p>8 あいさつ</p> <p>1分</p>	<p>○今日の学習を終わります。 A:Good-bye, everyone. See you. S:Good-bye, Ms.Nakajima and Mr.Kosuge. See you.</p>	

エ 実践を振り返って

① アクティビティーの工夫

本時のアクティビティーは、以前にも行ったことのある伝言ゲームである。同じゲームであったが、個人戦をチーム対抗戦にすることで、児童の意欲を引き出すことができた。

同じアクティビティーでも、編成グループや人数・道具・場面設定を少し変えることで、児童は新鮮な気持ちで活動に取り組んだ。

② 繰り返しの会話練習

本実践においても、繰り返し表現する場面を多く設定した。最初は小さな声しか出せない児童も、繰り返し練習することで英語の表現に慣れ、自信をもって声を出せるようになった。表現することに自信をもち、喜びを感じるこ

ができるようになることで、普段はかかわりの少ない友達とも気軽に会話し、楽しく活動する児童の姿が多く見られた。

③ かかわり合いの場づくり

本実践では、全員での活動とグループ活動・ペアでの活動を取り入れた。いろいろな場を意図的に仕組むことで、友達とのかかわり方が不得手な児童も自然に仲間に入り、いっしょに活動していた。国際科の学習活動をきっかけに、学級全体の友達関係は広がっている。

5 研究の成果と課題

(1) A L Tとの連携

国際科の授業を、より楽しく有意義な時間にするためには、A L Tとの協力が大切である。1時間の授業の中で、「A L Tが前に出る場面」、「H R Tが前に出る場面」、「いっしょにデモンストレーションをする場面」等、役割分担を明確にしておくことが、授業をスムーズに展開できるかどうかの重要なポイントになる。

(2) より楽しい英語活動を求めて

週1時間の国際科の授業を進めてきて感じることは、児童が、「他の教科学習では見せない生き生きとした表情を示すこと」、「失敗や間違いを恐れず、自由に自己表現していること」である。

児童は、国際科の学習が大好きである。この気持ちを大切にしていくために、教師は、週1時間の国際科の学習活動を充実させていかなければならない。そのためには、事前準備をしっかり整えた上で授業に臨む必要がある。

しかし、今、最も大切だと感じているのは、「教師が児童といっしょに学び、国際科の活動を楽しむ姿勢を示すこと」である。教師の姿勢次第で授業の雰囲気は変わるし、児童の反応も変わる。教師が英語表現や発音の間違いを恐れず、率先して英語で表現し、コミュニケーションを図ることを楽しむ姿勢を示していると、自然に児童もついてくる。このことを常に意識しながら、今後も国際科の実践を続けていこうと思う。

(3) 今後に向けて

現在は、毎時間A L Tと授業を進めているが、今後は、担任が1人で授業を進めていかなければならない状況も考えられる。英語の発音や表現の仕方はもちろん、授業の進め方について、研修と実践を積み重ね、1人でも自信をもって授業を進めていけるように、外国語活動における、教師の授業力を高めていく必要がある。

参考資料

- 阿部フォード恵子. (2000). 『NEW Let' s Sing Together SONG BOOK』. 東京：アプリコット.
- 景浦 攻. (2007). 『小学校英語基本図書選1 新しい時代の小学校英語指導の原則』. 東京：明治図書.
- 松香洋子. (2007). 『バナナじゃなくてbananaチャンツ』. 東京：松香フォニックス研究所.
- 松川禮子. (2001). 『小学校英語活動 「英語の歌と活動アイデア50ENGLISH SONGS』』. 東京：文溪堂.
- 松川禮子. (2007). 『小学校英語活動 「英語の歌と活動アイデア35NEW ENGLISH SONGS』』. 東京：文溪堂.
- 文部科学省. (2009). 『英語ノート』.